

平成 29 年度決算の概要

平成 29 年度においては、平成 29 年 4 月に旧神戸市地域医療振興財団から西神戸医療センターが移管され、11 月に先端医療センター病院を中央市民病院に統合、12 月に神戸アイセンター病院の開設を行い、4 病院体制となりました。

診療報酬改定や消費税負担の増など、医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、早期に経常赤字から脱却することを目標に、DPC 入院期間を意識した病床運営、地域医療機関との連携推進による新規患者の確保、費用の削減等の経営改善に引き続き取り組み、各病院の診療機能の強化等を図りました。

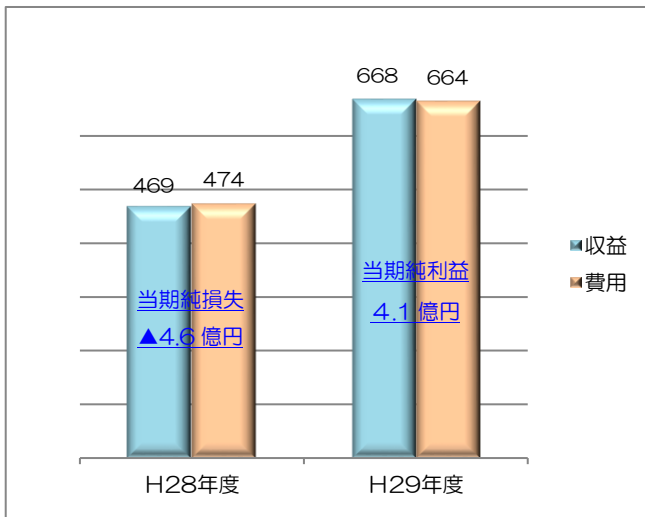
職員が一丸となって経営改善の取り組みを進めたことにより、平成 29 年度決算では、経常損益が 2.5 億円、当期純損益が 4.1 億円となり、3 年ぶりの黒字を達成しました。

また、単年度資金収支は、長期借入金返済額の減、西神戸医療センターの移管に伴う神戸市都市整備等基金からの資金受入等により、70.8 億円の黒字となりました。

平成 29 年度財務状況

損益計算書 (P/L)

(単位：億円)



西神戸医療センター（475 床）の移管、先端医療センター病院（60 床）の中央市民病院への統合、神戸アイセンター病院（30 床）の開設等の事業規模拡大に伴い、総収益及び総費用は大幅に増加しました。

移管・統合後の円滑な運営に努めるとともに、各病院の診療機能の強化による医業収益の確保、費用の削減等の経営改善に取り組んだ結果、当期純損益は 4.1 億円の黒字となりました。

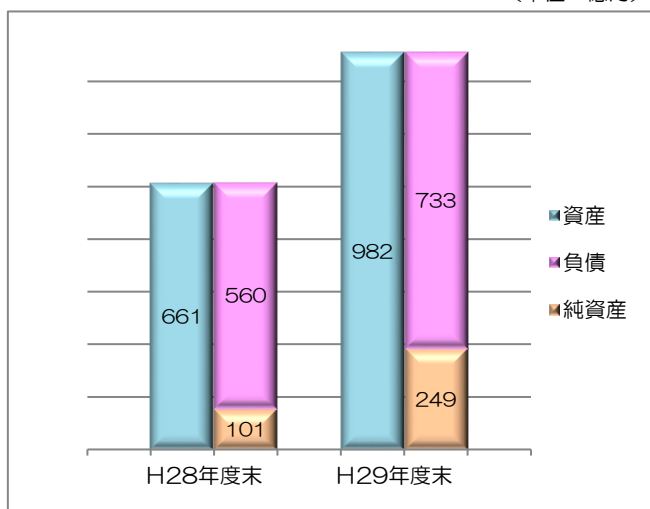
【収益・費用の内訳】

	H28	H29	増減
収益	469	668	199
（営業収益）	458	653	195
医業収益	422	601	179
入院収益	288	396	108
外来収益	124	190	66
その他医業収益	10	15	5
運営費負担金収益	28	42	14
資産見返負債戻入	7	7	0
その他	1	3	2
（営業外収益）	10	12	2
運営費負担金収益	4	4	0
営業外雑収益他	6	8	2
（臨時利益）	1	3	2
運営費負担金収益	1	1	0
その他	0	2	2

	H28	H29	増減
費用	474	664	190
（営業費用）	449	630	181
医業費用	439	618	179
給与費	207	289	82
材料費	126	179	53
経費	73	109	36
減価償却費	30	37	7
研究研修費	3	4	1
一般管理費	10	12	2
（営業外費用）	25	33	8
支払利息・諸費	8	8	0
雑支出他	17	25	8
（臨時損失）	0	1	1
固定資産除却損等	0	0	0
その他	0	1	1
当期純損益	▲5	4	9
経常損益	▲5	2	7

貸借対照表 (B/S)

(単位：億円)



西神戸医療センター移管による土地・建物の取得、先端医療センター病院統合に伴う土地・建物の買取、神戸アイセンター病院の整備等に伴い、固定資産が大幅に増加したほか、西神戸医療センター移管に伴う神戸市都市整備等基金からの資金受入や収支改善等により、現金及び預金が増加しました。

一方で、病院の整備に伴う借入金の増加、人員増に伴う退職給付引当金の増加等により、負債も増加しました。

純資産については、神戸市都市整備等基金からの資金受入及び神戸市からの西神戸医療センターの土地・建物の出資等により増加しております。

【資産・負債・純資産の内訳】

	H28	H29	増減
資産の部	661	982	321
（固定資産）	484	678	194
土地	137	185	48
建物・構築物	282	392	110
建設仮勘定	0	1	1
工具器具備品、ソフトウェア	37	62	25
その他	28	38	10
（流動資産）	177	304	127
現金及び預金	92	176	84
未収金（医業・その他）	80	120	40
棚卸資産	5	6	1
その他	0	2	2
資産合計	661	982	321

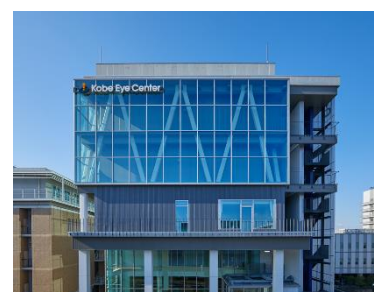
	H28	H29	増減
負債の部	560	733	173
（固定負債）	476	600	124
資産見返負債	18	20	2
借入金	430	525	95
退職給付引当金	28	55	27
その他	0	0	0
（流動負債）	84	133	49
借入金 （1年以内返済分）	23	27	4
未払金（医業・その他）	46	78	32
その他	15	28	13
純資産の部	101	249	148
資本金及び資本剰余金	64	208	144
利益剰余金	37	41	4
負債・純資産合計	661	982	321



西神戸医療センター



中央市民病院 南館
(旧先端医療センター病院)

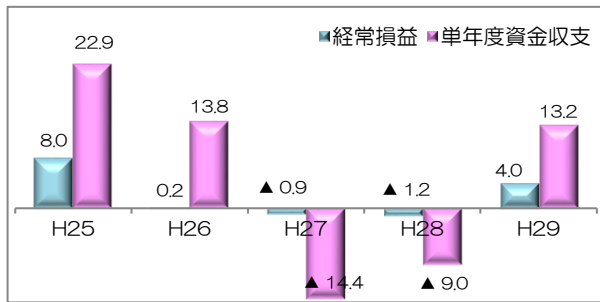


神戸アイセンター病院

病院別の状況

【中央市民病院】

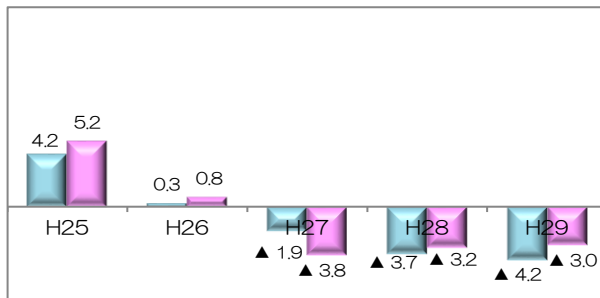
(単位：億円)



先端医療センター病院との統合に伴い救急医療体制等の機能強化を図ったほか、ダヴィンチ手術等高度専門医療の実施、外来化学療法件数の増による診療単価の上昇等により、入院・外来ともに前年度を上回る収益を確保しました。

また、医療の質向上や医療安全の確保等に十分配慮した上で、引き続き効率的かつ効果的な体制構築に取り組むとともに、経費の節減等に努めた結果、経常損益は 4.0 億円の黒字となりました。

【西市民病院】

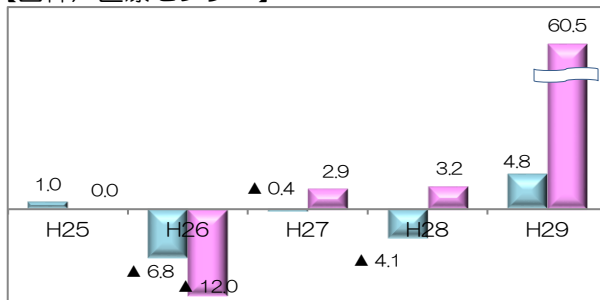


在宅医療への支援を含め、地域医療機関との連携強化を図るとともに、地域包括ケア病棟を導入し、リハビリ実施体制を強化したことにより、収益の確保を図りました。

一方、C型肝炎治療薬の使用量減に伴う診療単価の低下、近隣地域の少子高齢化や医師の異動等による患者数の減により、外来収益が減少したことなどから、経常損益は 4.2 億円の赤字となりました。

【西神戸医療センター】

※ H28 までは旧神戸市地域医療振興財団の数値であり、会計制度が異なるため参考値

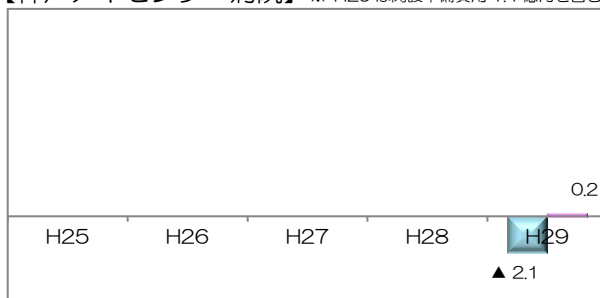


地域医療機関とのさらなる連携により、新入院患者を確保するとともに、平均在院日数が短縮されました。また、外来化学療法件数の増による診療単価の上昇等により、入院・外来ともに移管前を上回る収益を確保しました。

神戸市から土地・建物が当機構に出資されたことに伴う賃料の減等、費用も縮減されたことから、経常損益は 4.8 億円の黒字となりました。

【神戸アイセンター病院】

※ H29 は開設準備費用 1.4 億円を含む



中央市民病院及び先端医療センター病院の患者を着実に引き継ぐとともに、積極的な広報等により患者の確保を図りました。

当初計画として開院3年目の黒字を目指しているところであり、開院初年度は初期備品整備など開設準備費用を要することや、開院4か月の収支であることから、経常損益は 2.1 億円の赤字となりました（開設準備費用を除いた場合、0.8 億円の赤字）

今後の取り組み

平成 29 年度は、3 年ぶりの黒字となったものの、先端医療センターの一部買取をはじめ、投資額が大幅に増加し、今後、減価償却費の増が見込まれるほか、消費税の増税、診療報酬改定の影響等を考慮すると予算を許さない状況となっています。

今後も、質の高い医療の提供、患者サービスの一層の向上、地域医療機関等との連携強化に努めるとともに、さらなる収益の確保（DPC 入院期間を意識した病床運営、新規患者の確保等）や固定費を中心とした費用の削減等の経営改善に積極的に取り組み、市民の生命と健康を守るという市民病院としての使命を果たしてまいります。